

桑村小学校応援団会議！

桑村小学校 令和5年10月23日 No.22 文責 山地

第2回学校応援団会議を開催しました！

10月16日(月)に、「第2回学校応援団会議」を行いました。

応援団員(学校運営協議会委員)の皆様には、5時間目の授業を参観していただき、子供たちの学びの姿を見ていただきました。



【1年生の授業の様子】



【2年生の授業の様子】



【3年生の授業の様子】



【4年生の授業の様子】



【5年生の授業の様子】



【6年生の授業の様子】

授業参観後、音楽室で「第2回学校応援団会議」を開催しました。



【校長の挨拶】



【応援団長の挨拶】



【小長谷教諭からの説明】

校長からは、これまでの教育活動の説明と協力へのお礼の言葉を述べました。それから、150周年記念式典について準備状況などを説明しました。

応援団長の松井さんからは、「学校に地域の様子を伝えることで、今後どのように協力できるか考える機会にしたい。」という挨拶をいただきました。

協議事項では、前期の学校評価の分析と考察について、教務主任の小長谷教諭から次の

5点について説明がありました。

- ★函南スタンダードについて
- ★つけたい資質・能力について
- ★子供たちの様子について
- ★学校の様子について
- ★教師の指導並びに学校の管理体制について

【学校応援団会議で出された応援団員の意見】

- ◆「読書については学校の取り組みによってすごく成果があがっているように思う。『親子読書の会』のメール連絡がきっかけになり、保護者も引き込んだ活動になっている。本から得られるものによって、心が豊かになっている。」
- ◆「『聴く』と『聞く』について先生方がどのようにとらえているのかを知りたい。読み聞かせにいくと、『正しい姿勢で聴きなさい。』と指導する先生がいるが、それによって注意がそがれてしまうことがある。リラックスした姿勢でもしっかり聴いているときもあるのではないか。」
- ◆「授業を参観した際に、パソコンに集中していて、話をきいていない様子が見られた。作業に集中していて聴いていないことがあるのではないか。」
- ◆「『学校が楽しい』と感じている子、『読書を楽しむ』についてなど保護者と子供の意識のギャップが大きいのではないか。5人に1人が学校を楽しくないと感じていることが気になる。」
- ◆「HPなどで連絡もあり保護者の『学校の様子を伝える』の評価があがったのも学校の努力なのではないか。」
- ◆「先生との人間関係についてはこれまでの経験で、ちょっとしたことで『あの先生は〇〇の話はよくきいてくれるけど、ぼくの話はきいてくれない。』と訴えていた子もいた。上手に関われるようにすることが大切ではないか。」
- ◆「地域が学校に入るだけでなく、学校が地域に入ることも大切だと思う。職員がお祭りに参加してくれたように学校が地域に出てくれると地域と学校の距離が近くなってよい。」
- ◆「令和6年度よりPTA役員の任期が1年になることで、引き継ぎがこれまで以上に難しくなる。応援団がPTAに入って伝えていかないと上手に引き継ぐことが難しいのではないか。」
- ◆「PTAの地区割りが無くなったことで、区が子供に広報したいときに連絡する人がいなくなってしまった。学校応援団としてその役割を受け持ち、地区と学校をつないでいきたいと思う。」
- ◆「区の行事に子供たちにも参加してもらいたいと思うが、子供会の人数も減ってしまっている現状もあるので、学校にも協力をしてもらい、桑村小学区の子供たちが参加できるようなイベントを考えていきたい。」

応援団員の皆様、貴重な意見をいただきありがとうございました。